

2019年度 九州クラブハンドボール選手権大会 審判総括

文責：福島

九州協会および鹿児島県協会のご理解により、本大会を九州地区の B 級審判審査会として位置づけられて事に感謝申し上げます。受験生にとっては、知人が多い中で他ブロックで開催するよりもリラックスして審判が行えたことと思います。

審査会に伴い、本大会の審判団については、北九州ブロック 4 県帯同で実施、地元鹿児島県より 2 ペア、および受験者 1 2 名（6 ペア）で組織、受験者から翌 2 日目の担当もお願いできたことで、余裕を持たせた審判団編成となった。

1 日本協会発行「B級審判員の目標」に照らし合わせた行動を

- 試合前に行っておくべき事
- 試合中の立ち居振る舞い 所作
- 試合後の業務
- 常に意識を、受験者のみならず、全てのレフェリーに対して共通な内容
- ・ボール、コートから目をはなさない
 - ・自分の背後に両チームのプレーヤーを置かない
 - ・退場を判定したら、そのプレーヤーがコート外にでるまで見届ける
 - ・7 m、警告、退場には何に違反だったのか大きく 1 回ゼスチャーをする
 - ・チームタイムアウト時のレフェリーの立ち姿
 - ・方向指示、ゼスチャーの美しさ

2 判定基準

○コンタクトプレーの見極め

- 「許される行為」「許されない行為」→特に「最終局面」
 - ・防御側が足を使ってついて行っても、押す、つかむは許されない
 - ・確かに押す行為をしているが、押された選手への明らかな影響はあるか

○罰則の適用 →B級受験者の大きな課題

- 競技規則 8:4 の準備を
 - ・近年のレフェリング基準を伝える（これ以上は退場）ための YC や口頭注意
- ゲームをコントロールする最大の基準
- 相手の違反を誘発させる行為もある 心の準備
- 前半に YC や口頭注意を用いて、基準を伝えることで、「後半に YC は適用しない」が成立する

○負傷者への対応

- 負傷したためレフェリーがタイムアウトとったということは、そのプレーヤーはコート外に出さなければならない。コート上で治療行為はさせない。
- レフェリーはまずもって、負傷したプレーヤーへの声かけを忘れてはならない。順番が逆にならないように（タイムアウト→声かけ にならないように）
- ジュニアの大会でも考え方は同じ。ジュニアでは 3 攻撃の不参加が適用しないだけである。
- 一方のチームに足がつるプレーヤーが続出するケースもある。速やかに競技を再開させることが大切。

◎各県で確認され、九州ブロックの審判、競技運営技術が向上することを期待します。